

凡 例

1. 遺構には一連番号をつけ、その前にSA：築地・塀, SB：建物, SC：廊, SD：溝, SF：道路, SK：土壇, SX：その他などの分類記号を付記する。
2. 遺構の寸法数字はm単位である。
3. 遺構の高さは海拔高で、たとえばH：67.33mと表示している。
4. 遺構実測図の対向頁に平面写真を配したところがある。実測図には撮影後に判明した遺構がくわわっており、必ずしも写真と一致していない。
5. 遺構実測図をしめす各頁の右下隅に、その実測図と隣接する実測図のPLAN番号をしめした。
6. 遺物図版のPL. 番号は、対向頁の実測図にもおよぶことにする。ただし、写真をかかげず実測図のみをしめすもの、また写真に対応する実測図が他の頁に入っていることもある。
7. 木材および木製品実測図の断面にしめす平行線は、材の年輪を模式的にあらわしている。また、アミ刷りのものは広葉樹であることをしめし、そうでないものは針葉樹である。
6. 建物復原図の柱間寸法は、尺で表示している。